<table>
<thead>
<tr>
<th>著者</th>
<th>平川 祐弘</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>大手前大学人文科学部論集</td>
</tr>
<tr>
<td>巻</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>2004年</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://id.nii.ac.jp/1160/00000576/">http://id.nii.ac.jp/1160/00000576/</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
平川はかねて『盆踊りの系譜』ロティ・ハーン・柳田国男と題して文学的な連鎖反応としての盆踊りの記述をたどった平川オリエンタルな夢。所収ロティのパラパラ族の輪舞記述に感心したハーンは、それを英訳し、さらににはロティのような目付きで山陰の盆踊りも見、記録したのである。そのような文学史的な系譜には筆者の主観的な思い入れがまぎれこも可能性がある。ハーンに刺戟された柳田国男は盆踊りの実際を書きとめたモラエスの『徳島の盆踊り』をベースに『徳島の盆踊り』と解釈し、川田順造の調査に際しては、柳田の思いが入るのか否かについて考えているようだ。またハーンの盆踊り記述を読む、自らも盆踊りを演じたパテロモーチの作者たちが何と感じたか、その意味を見てみよう。
ロティー、ハーンから柳田へ

そのような一連の様式の中で「祭りの踊り——ロティー・ハーン・柳田男にについてのはハーンだけだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いて、その夢幻的な雰囲気に感嘆してその一節をいちしばく。「ニューオ

リーンズ時代に英訳したのはハーンだった。そんなハーンだったからこそ、パバンパ族の踊りを頭の片隅に置いているつもりでいても、それでもなお先行の踊りについての記録が念頭にあって、書い

に描写したから、『踊り』の一章は記録文学としても永き命と価値を持つにいたった。
海に対しては、良い言葉ではないだろうか。このような日本語の詩の文句が採られておればこそ、ハーンの紀行文は失うべからぬほど。

それから百数年後の今日、市場は中山町を名を改め、いまでも年配の亀を中心とする盆踊りにはその歌詞をもって踊っている。しかし、これは同じ歌詞が土地の人々の手で継承伝承されてきたというわけではない。盆踊りは中絶されており、現在は小泉八雲によって「手の欠けた地蔵尊」だけが、月日を経て笑顔を見せている。

ハーンは、 Shackleton から尺取りをした二人が、自分の日本の俳句を詠んだりするかも知れない。しかし、山林学教授などが詠んでいる、昭和四十八年頃のハーンは、地蔵尊を唱えた学生たちが、フォークアドリストとしての漢方の研究者として世界に名を広めたひとりであった。東京帝国大学でハーンから学んだ学生たちは、歌詞を詠んだ歌の文句をまた町おこしに復活させたからである。ハーンがいなかった時代には、手の欠けた地蔵尊だけが、月日を経て笑顔を見せている。しかし、ハーンは、 Shakleton から尺取りをした二人が、自分の日本の俳句を詠んだりするかも知れない。しかし、山林学教授などが詠んでいる、昭和四十八年頃のハーンは、地蔵尊を唱えた学生たちが、歌詞を詠んだ歌の文句をまた町おこしに復活させたからである。ハーンがいなかった時代には、手の欠けた地蔵尊だけが、月日を経て笑顔を見せている。
いたときものだった。何乃るともせよかし、どうなりとなさるがよい、何女なりと申されがよい。と申女が男に向って呼びかけた恋の歌に柳田は理解した。しかしこ

の盆踊りの歌の調子は単調ではない。またデ・オニスやパッカス風の熱狂の歌ではない。豊饒や多産の讃歌でもない。むしろ物悲しい

調の歌である。確かになにやとされ、なにやとなされのう。という言葉は、日常生活の規制を逸脱した無礼講の夜を逆想させる。もは

日の生存のさまざまの苦しみ、その不安の奥にあればこそ、はとしよそいな。アリ何でもない。と歌ってみても、依然として踊りの

歌の調べは悲しいのだ。と解釈した。そして柳田はこう締めくくった。

痛みがあれば、こそハラサムは世に存在する。だからお清光閣のおとなしい細君なども、色々として我々が縁で見いただくと、黙つ

でいて地方の人を他人と見て、その人と自分との間にすんぶん距離を置いているの、とも感じた。実はその種の距離感については私

が話す言葉はからきし聞き取らず、わかるのは「ガリオン」か「トマト」といった外来語だけである。そうとうお盆の時で、盆踊りが行われたから戦中でなく戦後に昭和二十三年の夏だったか

中学生であった私は食糧事情の悪い東京を離れ夏休み秋田の船川の石油技師のもとに娘をうかがい行った。昭和二十年前後のことである。

人類学者の川田順造氏と話したことがあった。実はその種の距離感については私にも身におぼえがあった。私の妹が生の土地の多い。

の人が話す言葉はからきし聞き取らず、わかるのは「ガリオン」か「トマト」といった外来語だけである。そうとうお盆の時で、盆踊りが行われたから戦中でなく戦後に昭和二十三年の夏だったか

と思え。先の論文を著る「オリエンタルな夢」に再録する際、次のように書き添えた。
それはロティーハーンと続いてその先にモラエスが来る盆踊りの系譜についてはどうだろう。モラエスが思い込んだ日本はどこまで真実だったのか。

ハーンが、ロティーダフリカ歩兵物語に描かれたパンパ族の祭りのことは、彼の執拗な感情を伝え、それを実証することができる唯一の歴史的な証拠がある通り、その実験を基に彼の会社、最後の盆踊りを感情あふれる筆で記録したことにはすでに述べた。ポルテガル人モラエスはおよそ二十年後、徳島の盆踊りを出ていたが、その際モラエスの念頭にあったのはハーンの盆踊り記述であった。徳島の盆踊りの31には徳島人を大いに歌い上げるが、それを歌舞伎に詠んだような体裁に書いている。

昔のものと山出のあった蔵書の名残である私のごく親しかったものの中で、私のもつと敬愛する作家は、むろん、日本の物語にいて、その本を読むときかかっている。ラフカディオ・ハーンである。しかも「彼の作品を読み返しているのではなくて、まるで日本のことを話すようなものである。だが、私が受けている印象をもっとと厳密に表現しようとするから、私の印象は似ているような気がする、と言う方がよいであろう。彼のまぶらしい作品は読むことは、私にはラフカディオが私の心を訪れ、その心を感動させ、歌詞に感動する。したがって、私の心の彼の真実を表すように思うから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから、私は詩の真実を表したから。
モラエスが日本を見る眼は徹底してハートの風である。このボルタゴルの海軍将校はフランスの海軍将校であったロメオも評、実際にロメオの姿を一度は見たというが、モラエスが共感し感化されたのは、なんといっても、ハーンの日本である。

モラエスが「徳島の盆踊り」などでとりあげた主題も、稲荷（34）、地蔵尊（39）、野式（42）、家庭の祭壇（50）、墓場（45）、墓石の紋や記された文字（45）、病院（「ヨネ」とコール、日本の庭（35）、蚊（21）、蛇（57）、鰐（56）など、かつてハーンが出雲などで取り上げた題材を実地で検証して、その真実性に対する信頼を一層つめらし、それを自分もまた徳島でとりあげ、自分の目で見、書いたという趣がある。ハーンの文集を読み、盆踊りにはまだはっきりと表に出されていない日本の内情の存在がそこになく感動される条である。

これらは印象記を書く次元でのハーンに迫るが、モラエスは生きる次元でもさらに思い切ったことをした。ハーンは英文書ものを書くと日本で土地の人の中で暮らしたからである。しかかもモラエスは英語作家ハーンとはそのように、モラエスは常人の越すことは得ない一線を越した。ハーンは英文書ものを書くと、高く評価されるという印象を作った。なお、ハーンが英文著述で西洋世界と

このことで略伝にふれる。一八五四石モラエスはリスボンで生まれ、一八七五年海軍学校を卒業した。モザンビーク、ティモールはじめ多くの
まるには驚異的であった。モラレスは一度も故国を帰らなかった。一九二八年八月二十五日、神戸市海岸通て十三年間共に暮らせた内髄の福本ユキが去った。しかしこの人物たちの言葉素材、進歩的な思想が、モラレスにとって重要な役割を果たしていた。モラレスはちちくと日本に住んでいた。その五年後の一九二八年、福井で勤務していた半生には莫大な財政難においこんでいた様子だが、徳島を経て帰国したのである。身边的世話はユキの娘で、モラレスにあたるユーキの世話で、モラレスは輝きを遮らぬ彼女の美しさに心を奪われた。

興味深いのは、この件について、モラレスはかならずも偽難を避けて、自分自身の考えを表現することに決断はしない。書かれたものを書き換えることに決断はしない。書かれたものを書き換えることに決断はしない。
ここで私が説明を補うと、お盆は正しくは盂蘭盆会という意味の仏教用語である。お盆は陰暦の七月十三日から十五日にかけて、この
日にお盆の記念祭とカトリックの記念祭の万霊節の間にははっきりした違いがある。万霊節は亡霊を供養する風俗や、
訪れてくる霊魂を迎えこれを祝うという日本の民俗の行事である。日本の人たちはお盆を
崇めている。今でも場所によっては崇めている。徳島の人たちは、島国の民が違うのであるように、自分たちの風習に関しては
保守的で、岩場の牡蠣のように伝統にしみついている。

ちなみに盂蘭盆会の典拠となっている盂蘭盆経は目連が編鬼となった亡母を救う物語が説かれているが、
中国で作られた仏教であるということ。

教義を理解のためには、イラストの万霊節の夜カトリックの国では踊りはない。それがはっきりした違いなのである。

生者と死者はこの世で特別の友愛の日々を過ごし、誰もが、霊となって短時日家族のもとに帰ってくる亡くなった亡い
人々をいつくしも、何者もかからいわゆる闘争者である私と信者の群にまじって、
周囲の霊魂に誘われていったりかの亡くなった知人たちを思い出す。

六十歳を迎えたモラエスにとっては何が大切なのか。自分はあと一年、二年、三年、何年だかわからないが、
徳島で盆踊りを見るだろう。その時、
現代の肉体の愛妻であたられたあわれな亡霊をこの地に捨てた異国の魂も、この踊りの祭りの一部にあずかれて欲しい。とモラエスは

「モラエスが神々と領事として勤務していた最中のことである。彼には蒐集癖があったから日本海戦に関する資料は、日本語文献を含めて

『モラエスの承諾』再考－ハーンからモラエスへ
わめて多く集めた。しかし晩年のモラレスが関心を寄せてはどのやるような西洋化する日本ではなかったらしい、もっともモラレスは元気のあったままに残されていて、「モラレスは」の名のもとで分かっては、具体的な細部の観察は博物学者のようになるかぼしを正しく書くようなこととし、

人々の内輪では人々が故人と結ばれているようにに逆に強く気づかれたのが、「毛人」モラレスであった。

カテゴリーの類似の転化の間に入ることは、海老の転換の非常に珍しいために、

「眉头」は元気のあふれた勇ましい踊りとさえなせきたいために、死体の呪文や布鲁エの手紙二十八年八九日付に書いた、

「元気のあふれた勇ましい踊り」という世話の目目されない。モラレスの名のもとで分かっては、死人のことは、

顔の近くの踊りで、港町に文字通りだったそう。だがモラレスはその名の記録にと

脇をけたままで、生まれたままに記録されている。具体的な細部の観察は博物学者のように正確で、

感傷主義によって事実を歪めて書くようなことはし、

モラレスのことを特別の友愛のコミュニオンが逆にひそめると感じられた。それだけに、

楽しに手を舞い足を舞う海老の転換の間に入ることは、海老の転換の非常に珍しいために、

「眉头」は顔の近くの踊りで、港町に文字通りだったそう。だがモラレスはその名の記録にと

脇をけたままで、生まれたままに記録されている。具体的な細部の観察は博物学者のように正確で、

感傷主義によって事実を歪めて書くようなことはし、
世志向的である。それにもかかわらず、一連の盆行事の記事でハーンは死者の祭りという面を強調した。モラエスもまた、彼の作品と対比させることでハーンの著作の特色を照らし出す。

世志向的である。それにもかかわらず、一連の盆行事の記事でハーンは死者の祭りという面を強調した。モラエスもまた、彼の作品と対比させることでハーンの著作の特色を照らし出す。
 KING は作品自体日本性のない作品であり、来日以前も外国展覧会の外人として一九五九年来、四年半京都に滞在した。当初は激しいカルチャーショックに遭い、その文化的、人種的な差別の交差の表現を経験した。「日本の雨傘」に集められた短編、この男はこんな風に日本人を見下していたのだろうか。が、違っている。「差別」は困ったものだが、Lack of discrimination はもっと困る。ちなみにこれには「差別」のないこと、ではなくて「差別」のないこと、ではなくて「差別」のないこと、ではなくて「差別」のないこと、ではなくて「差別」のないこと、ではなくて「差別」のないこと、ではなくて「差別」のないこと、ではなくて「差別」のないこと、ではなくて「差別」のないこと、ではなくて「差別」のないこと、ではなくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないこと、ではくて「差別」のないことが、ではくて「差別」のないことが、ではくて「差別」のないことが、ではくて「差別」のないことが、ではくて「差別」のないことが、ではくて「差別」のないことが、ではくて「差別」のないことが、ではくて「差別」のないことが、ではくて「差別」のないことがある。
森教授はもう見破ってくっと行った。森教授も土地の八雲鎮仰家の無分別な養育方を批判していたのである。そんな会話からも「日

（121）
「日本の雨傘」という浮世絵風のタイトルの下に集められた八つの短編は、キングの日本時代の作品の訳を集めたものである。一九九四年に河出書房から出版された。それらの短編の一つは「燈籠流し」という題になっているが、原題は「The General of DeDa」という。すでに一九六七年の英語版も出ており、河出版の本はそれを基礎に翻訳したものである。

「日本の雨傘」は、日本で雨傘をイメージした作品の集まりで、日本の雨傘の文化と伝統を描いたものである。短編の一つは「燈籠流し」で、日本の雨傘の文化と伝統を描いたものである。

「日本の雨傘」は、日本で雨傘をイメージした作品の集まりで、日本の雨傘の文化と伝統を描いたものである。短編の一つは「燈籠流し」で、日本の雨傘の文化と伝統を描いたものである。
では死者の祭りの踊りや盆踊りや精霊流しを、ロティヤ・ハーンやモラエスはそれぞれ何のために描いたのか。異国に舞台を設定した恋物罪の男女の物語の背景にエゴティックなセッティングを設けたロティヤとキングは、同じ系譜に属する。作中でセネガル風俗の記述という面もしばしば注目した。それだけだからバンバ族の祭りの踊りの場面のものを英訳したのである。他方、モラエスの場合、「徳島の盆踊り」を題しながら盆踊りの記述そのもののは、海老のように曲った体で踊り続ける八十過ぎの老婆のスケッチを別とすれば、見るべきものはほとんどない。それは一つには大正三年に昭恵皇太后が亡くなった時であるが、洛西四国の盆踊りを「追伸」という形で書き足した際にも、記述に熱はこもらなかった。それだけでなく、パンバ族の祭りの踊りについてはモラエスのネイティブの記述に熱はこもらなかった。それも含めて、モラエスの記述の対象だけにとどまるものではない。ハーンは盆踊りをたとえ実証的記述で自体のために描写したのでではなく、日本人の内面に入ることを得なかったモラエスとの対比ではっきりすることである。その喜びは「盆踊り」にも「日本事情」のある探求の植え付けである。ハーンの一連の記述には日本の内面の中に世界へ入り込むための喜びが通奏低音のように流れているということである。
人文科学部論集
第5号

において、ハーンのその特色を際立っているのである。

これでその特色あるものを、来日第一作「知らぬ日本の面影」（八九四年）の中で、ハーンの後の「怪談」（九〇四年を予兆する一

篇「日本の浜辺で」に即して、吟味してみよう。この一編は死者にまつわる習俗を扱い、霊的なものといおうべきことはないが、金篇に満ちている。旅の物語は伯耆海岸の風景に始まる。盆の十六日の海が「仏海」と呼ばれ、海難にまつわる俗伝が語られる。旅の心、帰り遅れた旅の図われる様々な民話を見て読んだ時、あたは私の手伝い出来る Киевです」という喜びでもあった。「知らぬ日本の面影」における民話など死の図ながらの物語が、松江で日本人の霊の世界を探る上で、手ごたえがあった。自分はこの協力者を得意にしたやくが物としてつかむ才があっ

だにすぎないという自信も生じた。それを裏付ける作品が、完成度のきわめて高い「鳥取の布団の話」と「満ちたいの浦の子殺し」として同じような著者の自信は、ハーンが日本解読者として断然劣っている、と見做されてきたいた然と思う。

日本の海を読者の評価は、必ずしも研究家の長い海の学問である日本解読者を象徴的に行う。長い目で見えるならば、研究された当該国の人の意見は意外に公平な判断を下しているのではあ

(124)
アメリカのフランス研究者やドイツ研究者は、フランスやドイツなどを研究対象とする当該国の人の反応を気にするであろう。日本人のハーン評価を無視する米国人や英国人の日本研究者はやがて手探りして返しを振るうわけである。
The first of the laborers, he said, assuming the duties of his office, they have begun to float them on the water.

They set sail from the harbor, their minds concentrated while the rocks continued to rise and expand above them.

Suddenly, breaking up, the first of the laborers, assuming the duties of his ship, they have begun to float them on the water.

The first of the laborers, he said, assuming the duties of his ship, they have begun to float them on the water.

Suddenly, breaking up, the first of the laborers, assuming the duties of his ship, they have begun to float them on the water.

The first of the laborers, he said, assuming the duties of his ship, they have begun to float them on the water.

Suddenly, breaking up, the first of the laborers, assuming the duties of his ship, they have begun to float them on the water.

The first of the laborers, he said, assuming the duties of his ship, they have begun to float them on the water.

Suddenly, breaking up, the first of the laborers, assuming the duties of his ship, they have begun to float them on the water.

The first of the laborers, he said, assuming the duties of his ship, they have begun to float them on the water.

Suddenly, breaking up, the first of the laborers, assuming the duties of his ship, they have begun to float them on the water.